

令和 5 年 6 月 27 日現在

機関番号：62608

研究種目：国際共同研究加速基金（国際共同研究強化(B））

研究期間：2018～2022

課題番号：18KK0011

研究課題名（和文）在米日本古典籍（リチャードレインコレクション）の調査研究と教育活用に関する研究

研究課題名（英文）Research and Study of Pre-modern Japanese Works in the U.S. (Richard Lane Collection) and its educational usage

研究代表者

神作 研一（KANSAKU, Ken'ichi）

国文学研究資料館・研究部・教授

研究者番号：30267893

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 13,700,000円

研究成果の概要（和文）：新型コロナの影響を強く受けたものの、当初の計画通りレインCの基礎的な書誌データの著録を完了した。オンラインによって頻繁に国際共同研究会を開催、ハワイ大学マノア校のヒューイ教授のお力添えによって毎回20名前後のメンバーが参集し、全員で日本古典籍および日本古典文学研究の最前線を共有できたことも大きな達成であった。ヒューイ教授らとともに、国際学会AATJ2022（アメリカ日本語教育学会）にてパネル発表が叶ったことも特記しておく。

在外日本古典籍の研究を、米国側の研究者が主体的に参画した双方向的な研究へと展開させて真の国際共同研究として機能させたいとの本研究の目的は、十分に達せられたと認識している。

研究成果の学術的意義や社会的意義

特に絵本と絵入り本の蔵緒に富んだ重要な研究資源であるレインCの文献調査が完了したこと（学術基盤データの構築）の学術的意義は、まことに大きいものがある。AATJ2022（アメリカ日本語教育学会）におけるパネル発表も、日本古典籍の教育面での利活用を提案するにふさわしい場であった。

また、ホノルル美術館の御理解と御許可を得て、レインCの優品を月刊誌『俳句四季』（東京四季出版）誌上で連載していることも社会的意義の高い研究成果だと自覚している（「てのひらの江戸 古典籍を旅する」）。

研究成果の概要（英文）： Despite the significant impact of the COVID-19 pandemic, we successfully completed the cataloging of the basic bibliographic data for the Lane Collection as initially planned. We frequently held international joint seminars online. Thanks to the collaboration of Professor Emeritus Huey(UHM), we were able to gather approximately 20 participants for each meeting. It was a great accomplishment for all to share the forefront of research on Japanese classic books and Japanese classical literature.

Furthermore, I am pleased to highlight that Professor Emeritus Huey and I had the opportunity to deliver a joint presentation at the AATJ2022 international conference. Our research on Japanese classic books beyond Japan's borders has evolved into an interactive study, attracting active participation from researchers in the United States. This accomplishment demonstrates that our primary goal of establishing a truly international joint research project has been fully realized.

研究分野：日本文学

キーワード：リチャードレインコレクション ホノルル美術館 ハワイ大学

## 1. 研究開始当初の背景

この四半世紀の間、諸所で在外日本古典籍の調査と研究が精力的に進められた結果、所蔵古典籍の目録化が進み、世界中の諸機関で一定程度の文献検索が可能になってきているが、そうは言っても未だ目録化に及ばない、未整理のまま放置されている古典籍も多い。

本研究で対象とするホノルル美術館所蔵リチャードレインコレクションは、質量ともに優れた古典籍群でありながら、目録は未刊のまま今に至る。その最大の特徴は、版種の異なる同一作品を多く儲蔵している点にあり、現物を比較検討することによって、いわゆる「刊・印・修」(版本書誌学的要諦。初版と後刷り、修訂の有無など)を識別することも可能である。菱川師宣や西川祐信ら高名な絵師による稀書珍本も多く、個別の研究の深化にも多大の貢献が予想される。

しかしながら、このたびの本研究の核心はさらにその「先」にある。文献調査に基づく書誌データの集積ならびに個別の研究ももちろん強力に推進するが、それとともに古典籍を現地の研究者にも「開放」し、双方向的な国際共同研究のもとに、若手研究者や大学院生に対する教育資源としても活用したいと考えている。日本古典籍を国内外に広く開放し、世界中の研究者が積極的にコミット(協働)することこそ重要かつ新たな研究のステージだと信じるからだ。近年急速に進むデジタル化の中で、原資料に基づいた実証的な国際共同研究の展開は、日本古典文学研究における海外のネットワーク形成(コンソーシアム)にも資するところが大きいと睨んでいる。

## 2. 研究の目的

本研究の主たる研究目的は3つ。

### 【A】悉皆調査による書誌データの集積(調査)

これまでレインコレクションの書誌調査を担ってきた九州大学チーム(松原孝俊代表)と国文学研究資料館チーム(山下則子代表)の蓄積を継承して、残余分の文献調査を行う。

### 【B】国際共同研究会の開催(研究)

レインコレクションの中にはさまざまな研究資源が含まれている。それらを適宜「国際共同研究会」などで取り上げて、その価値を広く共有・発信することとしたい。

### 【C】米国の若手研究者及び大学院生に対する教育資源としての活用(教育活用)

ハワイ大学マノア校の研究者と大学院生に対して「日本古典籍セミナー」を開催し、古典籍に関する知見の共有を図るとともに、古典籍に依拠した実証的な研究基盤の整備と構築を目指す。

上記3点のうち、本研究と従来型在外文献研究との差異を端的に示せば、それは【B】と【C】にある。古典籍を介した現地研究者との協働(書誌学的・文献学的研究)こそ本国際共同研究独自のものであり、双方向的な共同研究のもとに、ホノルルの地に、若手研究者をも巻き込んだ日本古典文学に関する国際共同研究拠点を形成し、将来的には海外における日本古典文学研究のネットワーク構築にも繋がりたいと考えている。

## 3. 研究の方法

以下の3点を複合的に進める。

### 【1】文献調査(【A】悉皆調査による書誌データの集積)

文献調査に基づく書誌データの集積を進める。残余分の書誌調査を完了させるとともに、必要に応じて国内での関連文献調査も実施する。

### 【2】研究(【B】国際共同研究会の開催)

年1回、4年間で都合4回、ホノルルで開催する予定だったが、【4. 研究成果】欄に記したように、結果的には5年間で開催回数は都合11回にのぼった(うち8回はオンライン開催)。日米の研究者がともに古典籍のチカラを深く認識し、各人の今後の研究にブレイクスルーを起こすための基盤形成を図る。

### 【3】教育活用(【C】米国の若手研究者及び大学院生に対する教育資源としての活用)

「日本古典籍セミナー」を年1回、4年間で都合4回、ホノルルで開催する予定だったが、【4. 研究成果】欄に記したように、新型コロナの影響を強く受けたために結果的には5年間で1回だけの開催に留まった。「装訂」「書型」「絵入り本」など、現物(レインコレクション)に基づいて日本古典籍の基礎を丁寧にレクチャーする場とする。実施するコチラ側としても、種々のノウハウを蓄積して海外における「日本古典籍セミナー」のコア・プログラム化を目指す。

## 4. 研究成果

新型コロナの影響を強く受けたものの、当初の計画通りレインCの基礎的な書誌データの著録を完了した。オンラインによって頻りに国際共同研究会を開催、ハワイ大学マノア校のヒューイ教授のお力添えによって毎回20名前後のメンバーが参集し、全員で日本古典籍および日本古典文学研究の最前線を共有できたことも大きな達成であった。ヒューイ教授らとともに、国際学会AATJ2022(アメリカ日本語教育学会)にてパネル発表が叶ったことも特記しておく。

在外日本古典籍の研究を米国側の研究者が主体的に参画した双方向的な研究へと展開させて真の国際共同研究として機能させたいとの本研究の目的は、十分に達せられたと認識している。

以下に具体的な研究成果を摘記する。

(1) 悉皆調査による書誌データの集積

新型コロナ流行のために渡航しての文献調査は当初の計画よりも回数を減らさざるを得なかったが、それでも、渡航可能な時期を見計らって集中的に調査を実施し、残余分の調査を完了させた。次なる課題は、その集積したデータの公開であり、諸方と連絡調整を図りながら今後も粘り強く準備を進めたい。

(2) 国際共同研究会

5年間で都合11回開催(うち8回はオンライン開催)した。参加者は各回20名前後。

2019年2月28日(於)ハワイ大学マノア校

発表者は6名。小林健二(国文研)、伊藤善隆(立正大学)、浅野秀剛(大和文華館)、J.ズウィッカー(UCB)、J.モストウ(UCB)、R.ヒューイ(UHM)。

2019年6月12日(於)国文研

発表者は3名。R.ヒューイ(UHM)、山下則子(国文研)、神作研一(国文研)。

2021年3月2日 オンライン開催

発表者は3名。岡田貴憲(国文研)、山本嘉孝(国文研)、神作研一(国文研)。

2021年4月3日 オンライン開催

発表者は2名。神作研一(国文研)、山本嘉孝(国文研)。

2021年5月11日 オンライン開催

発表者は2名。神作研一(国文研)、入口敦志(国文研)。

2021年6月8日 オンライン開催

発表者は2名。佐藤温(日本大学)、山本嘉孝(国文研)。

2021年9月21日 オンライン開催

発表者は2名。神作研一(国文研)、入口敦志(国文研)。

2021年10月26日 オンライン開催

発表者は2名。入口敦志(国文研)、木越俊介(国文研)。

2021年11月23日 オンライン開催

発表者は2名。佐藤温(日本大学)、小林健二(国文研名誉教授)。

2022年1月18日 オンライン開催

発表者は2名。山本嘉孝(国文研)、落合博志(国文研)。

2022年8月27日(於)ハワイ大学マノア校

発表者は4名。R.ヒューイ(UHM)、バゼル山本登紀子(UHN)、P.トンマーシ(UHM)、神作研一(国文研)。

(3) 日本古典籍セミナー

2019年3月1日にホノルル美術館で開催。参加者は33名。次第は以下の通り。

「装訂(how traditional books are put together)」 落合博志(国文研)

「書型(shapes and sizes of traditional books)」 神作研一(国文研)

「絵入本-写本(illustrated manuscripts)」 恋田知子(国文研)

「嵯峨本(a type of Edo Period mass-printed book)」 入口敦志(国文研)

「絵入本-版本(illustrated block-printed books)」 木越俊介(国文研)

\* 『国文研ニュース』55号(2019年6月)に木越俊介による報告を掲載。

(4) AATJ 2022(アメリカ日本語教育学会)におけるパネル発表

2022年3月19日にオンライン開催。参加者は14名。次第は以下の通り。

パネル How to Engage with Pre-Modern Japanese Works (Kotenseki)

: Showcasing the Richard Lane Collection at the Honolulu Museum of Art

Chair R. Huey (UHM)

Organizer Malgorzata K. Citko-Duplantis (テキサス州立大学)

MINAMI Kiyoe (ホノルル美術館)

KANSAKU Ken'ichi (国文研)

Discussant P. Tommasi (UHM)

\* KANSAKU For Research and Education

: Approaching the Richard Lane Collection at the Honolulu Museum of Art

(5) 月刊誌『俳句四季』(東京四季出版)誌上での連載「てのひらの江戸 古典籍を旅する」

2021年7月(38巻8号)より、レインコレクションの中から毎号1作品を取り上げて、その要点を見開きでわかりやすく紹介している(連載中)。これまでに取り上げた主たる作品は、吉田光由『塵劫記』、喜多川歌麿『画本虫撰』、北尾重政・勝川春章『青楼美人合姿鏡』、耳鳥斎

『画本古鳥つがひ』、竹原春朝斎『鳥羽絵欠び留』、北尾政美『絵本都の錦』、楸形蕙斎『山水略画式』、河村岷雪『百富士』、谷文晁『日本名山図会』、河村文鳳『文鳳龐画』、紀梅亭『九老画譜』、河鍋暁斎『暁斎楽画』、葛飾北斎『画本狂歌山また山』、同『絵本隅田川兩岸一覽』など。

以 上

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計7件（うち査読付論文 0件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 5件）

1. 著者名 KANSAKU Ken'ichi	4. 巻 48号
2. 論文標題 Longing for the Refinement of the Heian Court during the Edo Period:Development of Printed Books with Kasen-e	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 国文学研究資料館紀要（文学研究篇）	6. 最初と最後の頁 左13-70
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 KANSAKU Ken'ichi	4. 巻 47号
2. 論文標題 A Study of Jikkei-ron:An Aspect of KAGAWA Kageki's Karon	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 国文学研究資料館紀要（文学研究篇）	6. 最初と最後の頁 左5-45
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 海野圭介・小川剛生・落合博志・神作研一	4. 巻 1
2. 論文標題 国文学研究資料館所蔵松野陽一文庫分類目録	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 浅田徹ほか編『和歌史の中世から近世へ』所収	6. 最初と最後の頁 547-620
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 KANSAKU Ken'ichi	4. 巻 46号
2. 論文標題 Transition of Kasho Focusing on the Early Edo Period	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 国文学研究資料館紀要（文学研究篇）	6. 最初と最後の頁 左11-46
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 KANSAKU Ken'ichi	4. 巻 45
2. 論文標題 Corrections of Waka Poems in the Genroku Era	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 国文学研究資料館紀要 文学研究篇	6. 最初と最後の頁 11,46
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 山本嘉孝	4. 巻 71-7
2. 論文標題 中村蘭林『学山録』に見られる西洋天文学の知識 考証随筆の淵源をたどる	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 日本文学	6. 最初と最後の頁 36,46
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 海野圭介・神作研一・桑汐里・小林健二	4. 巻 43
2. 論文標題 国文学研究資料館所蔵碧洋白田甚五郎文庫分類目録	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 調査研究報告	6. 最初と最後の頁 573,620
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計9件 (うち招待講演 1件 / うち国際学会 7件)

1. 発表者名 KANSAKU Ken'ichi
2. 発表標題 For Research and Education: Approaching the Richard Lane Collection at the Honolulu Museum of Art
3. 学会等名 American Association of Teachers of Japanese (AATJ) (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 山本嘉孝
2. 発表標題 The Sinitic Seuil: Classical Chinese Prefaces in Japanese Books
3. 学会等名 MLA (Modern Language Association) 2021 (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 入口敦志
2. 発表標題 中国版画の批判的受容 観察の時代としての十七世紀日本
3. 学会等名 第1回印刷文化学会議(招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 神作研一
2. 発表標題 絵入歌書刊本の展開 江戸前期を中心に
3. 学会等名 E A J S 筑波大学2019 (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 山本嘉孝
2. 発表標題 Judging a Poem by Its Title: The Exophonic Significance of Poem Titles in Japanese Sinitic Poetry
3. 学会等名 World Literatures and the Global South Conference 2019 (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 KANSAKU Ken'ichi
2. 発表標題 Printed Versions of Poetic Collections History of Japanese and Literature in the Edo Period
3. 学会等名 Association for Asian Studies (AAS) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 神作研一
2. 発表標題 和歌絵本 と絵入り歌書刊本と
3. 学会等名 絵入本学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 YAMAMOTO Yoshitaka
2. 発表標題 Transcultural Dimensions of Edo Japan: Flower Arrangement and Tea Ceremony
3. 学会等名 Heidelberg University Transcultural Studies Workshop (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 山本嘉孝
2. 発表標題 Rush Talk in Black and Vermilion Ink: Obaku Zen's Impact on Sinitic Poetry and Prose Composition in Early Modern Japan
3. 学会等名 Association for Asian Studies (AAS) (国際学会)
4. 発表年 2023年



〔図書〕 計2件

1. 著者名 山本嘉孝	4. 発行年 2021年
2. 出版社 名古屋大学出版会	5. 総ページ数 428
3. 書名 詩文と経世 幕府儒臣の十八世紀	

1. 著者名 山下則子	4. 発行年 2019年
2. 出版社 三弥井書店	5. 総ページ数 385
3. 書名 在外絵入り本 研究と目録	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	山下 則子  (YAMASHITA Noriko)  (40311162)	国文学研究資料館・その他部局等・名誉教授   (62608)	
研究分担者	入口 敦志  (IRIGUCHI Atsushi)  (80243872)	国文学研究資料館・研究部・教授   (62608)	
研究分担者	佐藤 温  (SATO Atsushi)  (30609152)	日本大学・経済学部・講師   (32665)	

## 6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 分 担 者	山本 嘉孝  (YAMAMOTO Yoshitaka)  (40783626)	国文学研究資料館・研究部・准教授    (62608)	

## 7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計5件

国際研究集会 International Research Symposium, Joint Workshop on Kotenseki (traditional books) (UHM) 2019年2月	開催年 2019年～2019年
国際研究集会 国際共同研究会(国文研) 2019年6月	開催年 2019年～2019年
国際研究集会 国際共同研究会(オンライン) 2021年3月、4月、5月、6月、9月、10月、11月	開催年 2021年～2021年
国際研究集会 国際共同研究会(オンライン) 2022年1月	開催年 2022年～2022年
国際研究集会 国際共同研究会(UHM) 2022年8月	開催年 2022年～2022年

## 8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関		
米国	ハワイ大学マノア校	ホノルル美術館	